

平成28年度 第4回白馬高等学校学校運営協議会 議事録（概要）

1 日 時 平成29年3月21日（火） 14時00分～16時00分

2 場 所 白馬高等学校会議室

3 参加者 出席者9名（欠席者1名（宮嶋委員）） ※途中から出席2名（下川委員、奥原委員）

- ※その他出席者
- ・長野県教育委員会事務局高校教育課3名
 - ・白馬・小谷両村関係者2名
 - ・白馬高等学校関係者3名

4 次第・内容

- (1) 開会の言葉
- (2) 長野県教育委員会挨拶
- (3) 白馬高等学校長挨拶
- (4) 「白馬学」の発表会報告（発表会ビデオ視聴）
- (5) 報告事項
 - ① 平成28年度白馬高等学校の主な取り組み（全体）
 - ② 10月以降の主な取り組み
 - ③ 平成28年度進路状況
 - ④ 新2年生のコース選択状況
 - ⑤ 1、2年国際観光科の特徴的な科目
 - ⑥ 平成29年度の入学予定者の状況

<下川委員>

- ・来年度、国際観光科への地元中学校からの入学が少ないことをどのように捉えているのか？

<北村校長>

- ・一つは、今年の両中学の3年は進学志向が強く、他校へ進学する生徒が多かったと聞いている。もう一つは、授業等の面で「国際観光科は大変だ」と伝わった部分があったと考えている。国際観光科の中身をきちんと今の中学3年生に伝えることができなかつたと捉えている。

<岸委員>

- ・「国際観光科は外国人との対話が少ない」という声が出ているとのことだが、どのようなことか？

<北村校長>

- ・開科した時には、“英語の実践力を養う”という点をかなりアピールしてきた。しかし、生徒が思っていたよりも最初は授業中心だったので、生徒が抱いていたイメージと違っていただけではなかつたかと思う。来年度は早い時期に「イングリッシュ・キャンプ」を実施したり、在村外国人の活用を増やして、実践的な英語力養成に努めていきたい。

<松本村長>

- ・中学生は英語に苦手意識があるようだ。小谷村もできるだけ英語教育に力を入れてやっているが、もう少し早く教えればよかつたと反省している。

<岸委員>

- ・今年の3月後半のロータリークラブで実施する「スキーの集い」で、外国の高校生との交流を通じて、生徒の英語力向上につながればと考えている。

- ・白馬でも様々なスポーツイベントが実施されているので、スポーツレジャーを企画する「スポーツレジャーマネージメント」を授業に導入すると子どもたちの興味がわくのではないか。

(6) 協議事項

① 平成28年度重点目標に係る評価(授業評価項・学校評価項目)について (学校長説明)

<奥原委員>

- ・白馬高校への進学を考える生徒を増やすためには、白馬高校の特色ある学校づくりのPRと進学実績が大切な要因になると思う。
- ・白馬高校で不登校の生徒がいないという事は高く評価したい。それは、学校の中で先生方が一人ひとりの生徒のために親身になっている証しである。
- ・今後さらに魅力ある学校になるために個別指導を入れる、全体的に学科の魅力を普通科と国際観光科に出していくことが重要。中学校でも進路学習などを通じて協力を考えていきたい。次年度の改善を強く進めてもらいたい。

<白戸委員長>

- ・学校の評価が出されたが、生徒が卒業するまでの3年で初めて評価が出る。これから継続して、先を見据えて長期的な展望で進めるのが大事である。
- ・中学生への発信だが、中学生が何を考え、何を発信するのか研究した上で説明しなければならない。例えば英語でのコミュニケーションも会話しなければいけないとなると、英語自体がさらに難しく感じてしまう。

<武田委員>

- ・寮生たちが地域でお手伝いをする中で、地域の人たちとの会話でいろいろなことを学んでいる。それを今度英語に代えてやっていると英会話にも役立つのではないか。
- ・小中学校との交流については、座ったままではなく、体を動かしながら一緒に行動することが大事である。小中学校とすぐ交流できる環境を作ることがとても大事だと思う。

<横沢委員>

- ・小中学校の子どもたちが、やっぱり白馬高校が僕たちの目標なんだという意気込みを持たせてあげられるように、学校側と行政で取り組んでももらいたい。
- ・子どもたちがコミュニケーション力不足で、自己の殻の中に閉じこもっていることも事実なので、引き出すような指導もお願いしたい。

② 平成29年度学校経営計画(案)について(学校長説明)

<横川委員>

- ・地元の小中学校との交流はとても良いと思う。小中学校と交流をすることで、白馬高校の先輩たちが成長している姿を見れば、もっと魅力を感じる学校になっていくと思う。

<奥原委員>

- ・第2次長野県教育振興計画の5か年計画で、各中学校に信州型コミュニティスクールがつくられ、各小中学校には学校に協力する企業団体リストがある。これを高校に提供しつつ活用して効率的な統一感のあるより良い連携をつくっていかればと思う。

⇒平成29年度学校経営計画(案)承認

③ 平成28年度学校運営協議会の活動について(今井高校教育課長)

<岸委員>

- ・ロータリークラブのスキーの集いはまさに連携の発展型だと捉えている。白馬高校の生徒は、

みんな英語ができると思われているくらい、他校の生徒との交流では英会話ができるようになってきている。

- ・スポーツレジャーマネージメントでは、東京のフィットネスクラブとの連携協力が得られそうである。次年度は是非カリキュラムに入れていただければと思う。

④ その他（藤井高校改革推進係長）

- ・次年度の第1回運営協議会は4月26日（水）午前10時～12時を予定

(7) その他

<松本委員>

- ・これから寮生が増えるので、学校、県としてはどうしたいのかを大至急考えていただきたい。

<下川委員>

- ・タイとの連携はどのように進めていくのか？

<北村校長>

- ・20校と覚書をかかわしたが、当然本校ではそのままは受け入れられない。中間業者が入って、その中から何校かを選んでまとめて来ましようということになっている。連携協定書ではなく、覚書の内容で進めている。

(8) 閉会の言葉